

【めむろ未来ミーティング日程 1】

令和6年1月9日（火）

10:25～11:30

- 参加者 40人
- 芽室町 町長、副町長、教育長
政策推進課長、魅力創造課参事
農林課長、環境土木課長
- 記録 広報広聴係長

■対応・検討が必要な事項

①温水プールの温浴施設利用者の区別について(生涯学習課)

- 1 開会
- 2 町長挨拶
- 3 町からの説明事項
資料1 公共施設再配置構想
資料2 新嵐山スカイパークの在り方
- 4 意見交換

【意見】

報道で新嵐山の運営をモンベル社に委託するとあったが、それは決定したのか。

【魅力創造課参事】

資料の4ページ、項目二つ目記載のグランドデザイン(全体的な構想)を作成するのに当たってモンベル社に委託しようと想定しており、運営までは想定していない。

【町長】

経過をお話させていただくと、新嵐山株式会社の経営状況から、第三セクターとしてやってきたこの会社をこのまま継続してやっていけるのかということ、また、指定管理期間内に借入金を返済していくことが難しいだろうということを判断し、第三セクターを

諦めて民間企業にお願いできないかということをも7月に発表させていただいた。その後、すぐ次の担い手を探さないといけないため、6月にまちづくりに関する連携協定を締結していたモンベル社に声をかけさせていただいた。色々な企業に声をかけるということは難しいため、連携協定を結んだモンベル社と優先的にご相談させていただいたというのがスタート。元々新嵐山スカイパークにモンベル社を参入させるためにまちづくり連携協定を結んだのではないかという話も耳にするが、それは全く話としては別であり、3年ほど前から芽室町も含めた6自治体で構成する日高山脈観光連携推進協議会でモンベル社と連携して進めていて、その後、芽室町自体のまちづくりにモンベル社が関わってくれるということになったため連携協定を締結した。その協定締結とグランドデザインをモンベル社に委託するということは全く別のもの。ただ、連携協定を結んだ縁で優先して相談させていただいた際、先方から何か協力できることはないかと非常に前向きなお話しをいただいたため、様々な施設を運営していてノウハウを持っているモンベル社にグランドデザインの策定をお願いしようと考えたことが実態である。モンベル社が次の担い手になるかどうかは今の段階では別の話であり、まずは全体構想を描いてもらおうということ。その中で色々な提案があると思うが、それを全部飲み込むということではなく、皆さんの意見を聞きながら必要な機能などを町とモンベル社で話し合いながら、町としての構想をまとめるという流れになっていく。

【意見】

新嵐山スカイパークは赤字だったから第三セクターをやめるということになったと思うが、今後は黒字転換を目指していくのか。それとも赤字でもスキー場は必要な施設だからというような考えで残していきたいと考えているのか。温暖化もして、スキー場の赤字を黒字に変えることは難しいのでは。

【町長】

スキー場だけで黒字化するかと考えると、厳しい

と考えている。なので、色々な機能を備えてトータルのエリアとしてプラスになるかということを考えなくてはならない。新嵐山くらいの規模の山ではスキー場だけで黒字にするのは非常に難しい。しかし、町として赤字を全額埋めようという考えもないので、エリアとして通年でお金を稼いでいくなどをトータル的に考えていきたい。ただ、町民の憩いの場でもあるので、町民の憩いに対して町が予算を組んで何かサービスを提供していく必要もあるかとは思っているので、そのような発想で黒字転換を目指していきたい。

【意見】

モンベル社との関係は、町がずっと主導権を持ってほしい。モンベル社はアウトドアメーカーなので色々な経験はあると思うが、新嵐山が今回このような結果になったのは、町民の気持ちやマインドが合致しなかったからだと思っている。モンベル社は他にもグランドデザインの策定などもやっているかもしれないが、新嵐山はレジャー施設だけでなく憩いの場という部分がとても強いと思うので、外部の方が来てそこを汲み取れるのか不安である。南富良野町はモンベル社が入っているが、実際それが南富良野町のやりたかったことと合っているのかなど、そのような調査もした上で作ってもらいたい。都市計画ではないが、新嵐山を考えていくのにこの部分がすごく重要だと思っている。

【町長】

施設として、一定の集客力がないと良くないとは思っているが、もちろん町民の憩いの場としても存在すべきである。そういう意味では、例えば町が土地を貸したり山を貸したり売ったりしてやるわけではなく、町がしっかり委託などにより関わっていくことが重要だと思っている、その線は崩したくない。先ほど言ったとおり、モンベル社が出した意見を全て受け入れるということではなく、町として必要ない機能を提案されてきたとしたら、そこは最終的に町の構想として決めるので、提案を却下することもあり得る。また、モンベル社は地域貢献に対する思いを非常に強く持っており、先方は、できれば地元での受け皿を考えたいと言っている。

これからの話になるが、町としてしっかり信念、柱を持って、議論、検討をしていきたい。

【意見】

新嵐山の件での議会との話で、議会からの要望に対して町からの情報開示が足りなかったから予算が下りなかったと聞いている。運営を会社に任せていて、なおかつ会社の情報は明かせないという状況だったとのことだが、今後、会社の情報を明かせるような状況にすることは可能なのか。

【町長】

あくまでも新嵐山株式会社は第三者であり、議会で議論するのは町と議会になる。第三者である会社の運営について議会で議論する仕組みにはなっていないという部分がある。そのため結果として細かい情報が出せないということはあったが、特別委員会などにおいても経営状況や人事など、提供できる情報を提供していた。

今後、町が民間事業者指定管理委託をする状況になった場合についても、事業者の情報をしっかり掴んで公表できることは公表していくことは必要だと考えている。

それらも踏まえ、今は前を向いて、議会としっかり情報共有しながら良い新嵐山スカイパークを作っていくということに傾注しているということをご理解いただきたい。

【意見】

新嵐山スカイパークがもし再開されるのであれば、天然温泉が欲しい。町内の温泉が無くなったので、そのような施設があれば客入りも見込めると思う。それに伴い、台風で使えなくなった川沿いのキャンプ場を、魅力的な場所なので予算はかかると思うが再整備してほしい。町民割引などもあった記憶があり、町民にやさしいキャンプ場だったと思うので、検討してほしい。

また、①新しい温水プールは、本来チケットを買って温浴施設を利用するが、プールからそのままお風呂に入れるような感じになっていて、お金を払ったのか払っていないのか区別できない状態である。以前利用し

た時にはお金を払ったか確認された。わかりにくいので、腕に印を付けるなど、良い方法があったら良いと思う。

【町長】

過去に新嵐山で温泉が出るか試掘をやった経過がある。この場所は日高山脈から流れてきた岩盤が非常に強く、その岩盤を掘るといことは難しいと聞いている。ただ、今は他の場所から温泉のお湯を持ってきて運営している場所もある。経費の問題もあるが、温泉を整備するという事になれば検討したい。

キャンプ場の再開については、新嵐山株式会社の発想として、グランピングやフリーサイトを設けて色々な選択肢があるキャンプ場にしようというコンセプトがあった。今後も新嵐山の自然環境を踏まえるとキャンプ場は必要だと思っている。川沿いのキャンプ場は道路を挟んで離れているということもあり、管理運営上の問題があるが、位置も含めて考えていきたい。

町民割引については、新嵐山株式会社は経営状況が悪くてこのような事態、状況になってしまったが、元々、経営を続けて経営が好転した際には町民割引の実施を考えたいとは思っていた。町長としては町民に対して割引やプラスになるサービスはやらなくてはいけないと思っている。また、パークゴルフ場を無くしたこともあり、高齢者の皆様が新嵐山から少し離れたような経過もあると思っているので、そういう方々をいかに呼び戻すか。ここは新たにお任せする会社だけではなく、町としてもヒト・モノ・カネを投入していきたいと考えている。そういう部分も今までの反省を踏まえて考えていきたい。

【教育長】

プールの件、更衣室は一つのため混乱している可能性はあるかもしれない。プール、ジム、温浴施設を月 4,950 円で使い放題の人気プランもあり、利用者が増えているため、なおさらそういう状況になっているかもしれないが、利用者の方に入浴券を買ったかどうかなど質問するようなことは不安感や不信

感を与えかねない状況である。腕に印を付けるなどのお話しもいただいたので、利用者の方が気持ちよく利用できるような対策を検討していきたい。

【意見】

上美生地域の事について。NPO 法人上美生と上美生ほしぞらプラン会議の一員として活動している。地域で住み続けるために必要なことは何かということを考えて進めており、そのために設立した団体だと思っている。そのような私たちの活動を、町には応援してほしい。NPO 法人上美生では地域公共交通に取り組んでいて、2015年に地域から「車の運転ができなくなったら困る」という要望があったことに対して活動を始めた。地域公共交通はとても大変で、立ち上げてからも継続していくのが本当に大変。ただ、少しずつだが広がっていて、利用者からも感謝いただいている状況である。

補助金だと仕組みづくりのための一時的なものだと思うが、地域公共交通はインフラだと思っており、考え方としては町のやることをNPOに委託しているという考えになってもらえないかと思う。上美生だけなぜと言われるかもしれないが、それをモデルとして他の農村地域にも委託していけば、今のタクシー助成だけでなく、農村地域の交通に関して地域の人たちが関わっていく仕組みができていくのではないかと思うので、ぜひ応援してほしい。

もう一つNPOに関して、「みんなのお店 KAMIBI」の経営が厳しい。儲かる地域であればどこかのお店が入ってくれるが、そうではないので苦しい。しかし、地域の拠点としては、買い物難民の件や居場所の件でも必要だと思っている。以前のブラックアウトの時も、皆さん KAMIBI に集まって情報交換をするなど拠点として大事だと実感したが、年数が経つと皆さん忘れてしまう。当時は自分の家が停電しているのに役員が発電機を持ち込んでお店を何とか営業させたりスタンドを動かしたりしたが、今また同じようなことが起きたら、それぐらいのモチベーションがあるか不安。私たちだけでやっているというその思いが漂わないようにしたいと思うので、応援してほしいと思っている。

あと移住の件で、ほしぞらプランと NPO 法人上美

生で移住定住について動いているが、上美生地域だけでなんとかなることではなく、上美生が入り口となってまちなかに繋がるような取り組みをしたいと話している。そこも応援いただきたい。

私たちがイキイキした町になるようにと思って活動していて、そこで得たものは町内会費無料や地域の子どもの給食費無償化など、地域に還すことをイメージしているので、ぜひ応援してもらいたい。

【町長】

地域公共交通は難しい問題。話が飛躍するかもしれないが、デジタルなどを活用していくことも大事だし、最近ではライドシェアが話題だが、二種免許が必要であり、海外の話だが犯罪の温床にもなっているという話も聞いている。それらも踏まえて一足飛びにはいかないということを実感している。そう考えると上美生地域で取り組んでいただいた MaaS は重要な位置付けである。その中でインフラ、特に車両のことも仰っていると思うが、自動車メーカーなどの企業に要望はして、継続して要望していきながら町としても支援できないか考えていきたい。車は重要なインフラなのでそこは考えていきたいが、その一方で安定して地域の担い手を確保していただかないといけない。もちろん応援はしていきたいが、双方がうまくバランス取れていないと継続的な事業に繋がらないので地域においてもご検討いただきたいと思っている。地域でも担い手がないということになれば、上美生地域だけでなく町内全体的において町として抜本的に考えなければならないと思っている。

KAMIBI は、コロナの影響が全く無かったかというところではないと思う。地域の皆さんに利用していただくことは然りだが、以前は市街地の皆さんが買い物に来たり、市街地の団体が商品を買ったりという動きがあったと思う。そういった動きを再度元に戻したりさらに活発化させたりということが必要かと思う。町としては KAMIBI だけを広報していくことは難しいが、地域活動としてこのような取り組みをしている、このような商品を扱っているというようなことを発信していくことはできるので、お手伝

いの一つとして一緒に PR していければと思う。

移住定住の件は、交流関係人口の増加について課題として取り組んでいる。その中で移住定住に繋がるには何が重要かというところが大事。お試し住宅がないと来ないと聞いたりもするが、一方で住宅利用はあっても移住定住に結びつかないケースがあったりと、課題も多々ある。上美生地域は色々な活動をやっていると認識しているので、その活動を無下にしないよう、一人でも多くの移住定住を実現していきたい。移住で問題になるのが住居と雇用の部分であるので、この部分で町が何かできないか。他の NPO 法人で移住と雇用について取り組んでいるので、そこのマッチングをもっと上手くできないか感じている。そういった資源を活用しながら町としても取り組んでいきたい。

後は団体の皆さんと話し合う機会を引き続き設けて、色々な状況を聴きながら町としてできることをやっていきたい。

【意見】

新嵐山株式会社について、なぜ赤字になったのかなど大体のことしかわかっていない。人件費がなぜこのくらいかかったのかなど、決算書を見てもわからない部分などの情報開示は難しいのか。

【町長】

最終的な検証をするということは今議会とも話していて、これまでの経緯や状況などをまとめている状況。会社も 1 月 25 日に債権者集会がありそこで破産手続きについてひと段落すると思っており、それが終わった後に現状報告を議会に公表していくことになる。

いずれにしろきちんとした形で総括しないとけないと考えている。

【意見】

新嵐山の件で批判も多いかと思うが、ここで1回ゼロにして、もう過去のことは過去のことに割り切って、これから町で盛り上げてもう1回やっていると皆さんに思ってもらって、町民も町民以外の方も楽しめるような

ものを想定しながら頑張っていってもらいたい。

【町長】

私たちも反省すべき点多々あるが、前に向かっていくしかないと思っている。ただ、先ほどからお話しているとおり、情報開示はしっかりしていきたい。新嵐山活用計画を策定した時には、コロナ禍もあり説明する機会が少なく、行政主導でやっているというイメージに見えたという反省点がある。ただ、方向は一つしか決められないので、180度違う意見があった時にそれを全て全員に理解してもらうことはできないということをご理解いただきたい。

【意見】

部活動の地域移行について進めていると思うが、子ども達が部活もしくはクラブチームによってスポーツをする上で不利益にならないように進めてもらいたい。

部活の顧問の考えやクラブの方針、保護者の考えなどバラバラかもしれないが、子ども達が楽しく全力でプレーできるような形になるようにしてもらいたい。

【教育長】

部活動の地域移行に関しては、子どもたちや保護者、教員はもちろん、地域の方にも興味関心のある内容だと思う。

子ども達の生涯スポーツ、地域にとっても新たな取り組み、そして教員の働き方改革の3点がうまくマッチングしないと持続可能にならないので、その観点を活かしながら子ども達がやりたいことを持続できるよう、そして地域の方にも是非そこをご理解、応援していただいて、少しでも多くの部活動を持続可能にするために地域移行していきたいと考えている。

今年度、クラブの地域移行に関しての準備会を立ち上げた。1月23日には保護者、地域関係者等に案内している説明会を行う。令和6年度7年度には協議会という形で多くの方に参加いただきながら芽室ならではの地域移行について協議をして、やれるところから地域移行していきたい。

町や規模、種類によって違う対応が生じるのでは

ないかと思っている。今までどおり教員が指導者登録してやっていく部活もあるだろうし、教員と地域の方が連携していくやり方など色々なバリエーションが考えられる。そのためには地域の人材や組織を発掘していかなければならない。その作業を1月23日の説明会の後、さらに多くの方のご理解をいただいた中で進めていき、なかなか厳しいと考えているが、令和8年度からの完全移行を目指していきたい。子ども達のために移行するという視点をずらさず、できるところからスムーズな移行ができるように取り組んでいきたい。

11時30分終了



【MMM後のGoogleformによる意見①】

冬のスキー場は赤字でも是非ともやってほしいです。子ども達は皆小学一年生から嵐山のスキー教室に通いスキーができるようになりました。大人の私も気軽に使える、近いスキー場がなくなって本当に残念です。一番下の子は来年小学校に上がります。残念です。後レストランも洒落たものでなくていいです。昔の感じが良いので、復活してほしいです。2階にはガッツリ食べられるようなメニューで、一階は焼肉ができるような。風呂やキャンプ場は無理に戻さなくていいです。パークゴルフ場は高齢の方に必要です。昔の嵐山を是非よろしく願います。

【MMM後のGoogleformによる意見②】

新嵐山の活用に関して、子供の遊び場的なものを屋内・屋外に作ってはどうかと思います。エコロジーパークのふわふわドーム、よつ葉アリーナ

のキッズスペースはいつも子供達が遊んでいます。宿泊機能は無くして、遊ぶスペースを拡大して魅力さえ有れば多少遠くても人は集まると思います。個人的にはジップラインが良いなと思います。